

温泉パラダイスサークル主催山行記

武甲山(周回) & 武甲の湯



編集: O

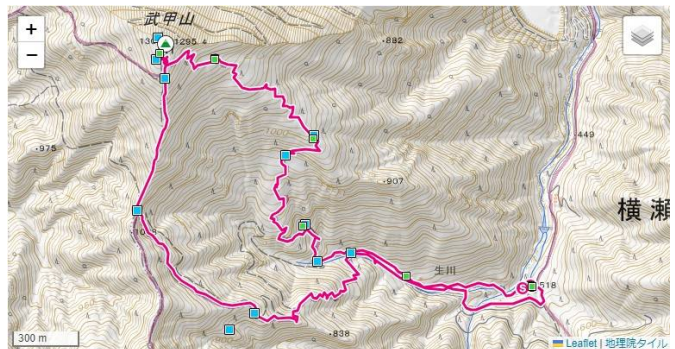
- 【山行地】秩父・武甲山(標高1304m)
- 【山行日】2023年 11月 12日(日) 曇天、時々晴れ
- 【交通手段】マイカー2台(H車、N車)
- 【費用】2700円(温泉入浴代を含む)／一人あたり
- 【会参加者】9名 CL:K SL:F、O、K、K、S、S、N、H

開始時間:8:48、下山時間:14:43

GPS 5:55H

距離 7.6 km

登り 829 m、下り 830 m



【感想文1】

当日は冷え込みが強く日差しも少なかつたにもかかわらず晩秋の雰囲気を満喫できました。北関東山行のみの私でしたがこの日初めて埼玉奥武蔵の山行となりました。車中から見る武甲山の山容は、石灰岩の山肌をむき出しに荒々しい雰囲気満載でした。

神社駐車場は、到着時ほぼ満車状態でなんとかスペースを見つけて止めることができました。早々にトイレ、体操(Sさん音頭)を済ませてCL、SLさんの計画通り定刻より少し早く出発し余裕をもって計画通りの山行ができました。しばらくは広く整備された道を歩きます。歩きやすいですが勾配があります。しばらく行くと不動滝に出会います。木々の緑と滝の清涼感がステキです。頂上トイレの流し用の水を登山者にボランティアで山頂まで運んでもらおうというシステム「修行」があるようですが、みなさん「パス」します。静かなの森の中を歩きます。とても気持ち良いです。😊
綺麗な杉林の中を進むと大杉の広場に到着です。広々としていて腰をかけられる木もありましたので、休憩所に最適です。大杉の木もめちゃくちゃ大きくて見応えがあります。目安の丁目石が登山口から山行をサポートしてくれます。五十二丁目が山です。



山頂に近づくにつれて、武甲山の特徴でもある石灰岩が出てきます。足場がガレてくるところもあるので気を付けて登ります。山頂からの景色は高度感があって素晴らしいです！😍



遠くに浅間山、赤城山、日光白根山も見えるそうですが、この日は曇りぎみでちょっと残念でしたが手前には埼玉百名山の城峯山そして秩父盆地と長瀬方面が一望できました。神社まで下りて昼食を各々取って下山開始します。途中、メンバーで足を攣るハプニングはありましたが、そこは皆さんのサポートがしっかりしているので、その点にとても感心しました。(ソロでは自分で何とかしていた経験があったので)下山後武甲温泉へ直行。単純硫黄温泉(低張性、アルカリ性、温泉)で効能は、(省略)

温パラ主催ともあって、約1時間超を確保頂き、内風呂、露天風呂、サウナを一通り満喫させていただきました。さて、トピックスといえばスライドするみなさんはトレラン、家族連れ、若者Grなど多岐にわたり人気の山であることを肌を感じる事ができました。山頂からの見晴らしは素晴らしくまずは御岳神社の裏手の展望台に立ってみると、山頂の石灰岩採掘の規模に目を見張りました。武甲温泉だいすき！温泉パラの醍醐味を感じることができました。車中いろいろな話して盛り上がり眠くなる事がまったくありません。車中(自分の乗車した分ですが)はローカルルートナビに徹したOさんと「働く人のお店」話題で盛り上がった皆さんが印象的でした。



【感想文2】 副題： ～ かわいそうな武甲山 ～



11月12日(曇り) 6時過ぎ、野木町役場出発。埼玉県秩父市と横瀬市にまたがる武甲山(標高1304m)へ向かいました。

一の鳥居登山口に近づくにつれ車窓からはピラミッドのように白く輝く山容が現れてきました。高純度の石灰石を4億トン埋蔵している日本屈指の大鉱山です。石灰岩は日高市の太平洋セメントまで何と23.4Kmを地下ベルトコンベアで運び、そこで加工されているそうです。(武甲温泉の叔父さんの話)

(石灰石は自給率100%で輸入なし)

さて一の鳥居駐車場はほぼ満杯でしたが何とか駐車に成功し体操の後スタートしました。

武甲山は古来より信仰の源であり、秩父神社(秩父夜祭はユネスコ無形文化遺産)の社殿と参道の南側延長線上に武甲山は存在します。(秩父神社の御神体が武甲山) 山頂までは「一の鳥居」を1丁目とし、山頂の武甲山御嶽神社(みたけじんじゃ)を52丁目と数え、表参道の路傍には「一丁目石(ちょうめいし)」が置かれていました。一町とすれば109mでしょうか。(標高差786m) かつての山頂は標高1336mでした。1970年代(昭和40年代後半)に山頂から階段状に切り崩す掘削が始まり二等三角点や「武甲山御嶽神社」は移設されたのです。

その結果1295mとして三角点が埋設され、旧山頂は1980年に爆破で失われ現在の標高は1304mとなったわけです。武甲山は日本二百名山の一つに数えられ、両神山・三峰山とともに秩父三山としても有名です。

日本武尊(やまとたけるのみこと)が登山をし、武具(甲)を納め東征の成功を祈ったということから「武甲山」と名付けられたようです。

「ハワイからはるばる流されてきた武甲山」石灰石を埋蔵していたことによりその姿は変わり果てましたが「武甲山は秩父の誇りだ。会津磐梯山なんかに負けない宝の山だ！」と武甲温泉で出会った古老は自慢していました。こんなに愛されて武甲山は、本当は幸せなのかも？ 🍵

